

| | | | |
|---|--|----------------|-----------|
| 領 域 | 統合分野(看護の統合と実践) | 開講時期 | 3年前期 |
| 科 目 名 (単元名) | 看護マネジメント | 単 位 数 (時間数) | 1単位(15時間) |
| 講 師 (所属・職位等・実務経験) | ①江口 珠美 (別府医療センター・看護部長・看護師 35年) ②渡邊 真弓 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師 32年) | | |
| <科目目標> 看護の提供における人的資源(ヒト)、環境や医療機器等の物的資源(モノ)、財的資源(カネ)を有効に利用していくためのマネジメントおよび看護職者の教育とキャリア開発の必要性・教育形態・システムについて理解する。 | | | |
| <内容> | | | |
| 回 | 授業内容 | 授業方法 | 担当講師 |
| 1 | 1. 看護におけるマネジメント 1) 看護とマネジメント (1) マネジメントとは (2) 看護マネジメントの定義 (3) 看護におけるマネジメント (4) 看護におけるマネジメントの変遷 (5) 看護のマネジメントが行われる場 2) 看護ケアのマネジメント (1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 (2) 患者の権利の尊重 (3) 安全管理 (4) チーム医療 (5) 日常の看護業務におけるマネジメント | 講義 | ① |
| 2 | 3) 看護サービスのマネジメント (1) 看護サービスとは (2) 看護サービスマネジメントの対象と範囲 (3) 継続看護、入・退院調整 (4) 他職種との協働 (5) 病院機能評価 4) 組織目標達成のマネジメント (1) 理念の形成と浸透 (2) 現状分析 (3) 看護の組織化 (4) 看護部門組織の職位と職務規程 | 講義 演習 | ① |
| 3 | 5) 協働のためのマネジメント (1) 人材フローのマネジメント (2) 看護ケア提供システムと看護単位 (3) 看護単位の機能と特徴 (4) 重症度、医療・看護必要度 (5) 人事・労務管理 (6) 労使関係管理 (7) 物的資源管理 | 講義 | ① |
| 4 | 6) 情報のマネジメント (1) 情報の種類 (2) 情報の公開 (3) 個人情報の保護と管理、診療情報等の開示 (4) 診療記録等の電子化と医療情報システム 7) 看護を取り巻く諸制度 (1) 医療制度 (2) 診療報酬制度 (3) 看護政策と行政 | 講義 | ① |
| 5 | 8) マネジメントに必要な知識と技術 (1) 組織とマネジメント (2) リーダーシップとマネジメント (3) 組織の調整 (4) 組織と個人 | 講義 演習 | ① |

| 回 | 授業内容 | 授業方法 | 担当講師 |
|---|--|----------|------|
| 6 | 1. 看護職者の教育 1) 法的根拠 ・保健師助産師看護師法 ・看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・看護業務基準 ・看護者の倫理綱領 2) 看護職の教育制度 (1) 基礎教育課程と継続教育 (2) 継続教育・卒後教育 ①自己学習・現任教育 ②専門看護師制度、認定看護師制度・特定行為研修制度 ③新人看護職員の教育 ・新人看護職員における問題 ・新人看護職員研修ガイドライン ・指導體制 ・教育方法 OJT と OFF-JT | 講義 演習 | ② |
| 7 | 3) 看護職のキャリアマネジメント (1) 看護職のキャリア形成 ①看護職の技能修得段階 ②クリニカルラダー (2) キャリア開発 (キャリアディベロップメント) ※事前課題-自己のキャリア形成について考えておくこと | 講義 演習 | ② |
| 授業の進め方 テキストの内容と看護現場での状況や事例を紹介しながら授業をすすめる。講義を中心に進める。看護制度、看護職員の教育について学習し、自身の課題や卒業後にどうあるべきかグループワークを通して考える。 | | | |
| テキスト 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理(医学書院)①② | | | |
| 評価方法 筆記試験 | | | |

| 領域 | 専門基礎分野 | 開講時期 | 3年前期～後期 |
|---|---|--------------|-----------------|
| 科目名 | 看護実践演習 | 単位数 (時間数) | 1単位(30時間)うち30時間 |
| 講師 | 杉安 久美(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師20年) | | |
| <p><科目目標> 複数の対象において、変化する状況を把握し、臨床判断を用いて必要な看護をマネジメントしながら実践する能力を身につける。</p> <p><内容></p> | | | |
| 回 | 授業内容 | 授業方法 | |
| 1 | 1.複数の看護技術を要する1名の患者(患者A)の看護計画立案 ①事例における対象理解 ②患者Aに実施される看護の根拠 ③患者Aに実施されるケアの中での優先度 ④実践中に起こりうるリスクの予測と防止策 ⑤患者Aが納得する説明 【事後課題】患者Aの看護計画を①～⑤の視点で立案する。 | 講義 個人ワーク | |
| 2 | 2. 複数の看護技術を要する1名の患者(患者A)の看護計画立案 | グループワーク | |
| 3 | 【事前課題】患者Aの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 3.患者Aの状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習① | 演習 | |
| 4 | 【事前課題】患者Aの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 4. 患者Aの状況をアセスメントし、優先度と根拠をふまえ安全・安楽に看護を実施するための看護技術演習② | 演習 | |
| 5.6 | 5. 複数の看護技術を要する1名の患者(患者A)の看護の実践 -1) 看護実践 -2) リフレクション | シミュレーション演習 | |
| 【夏季休暇中課題】 1.患者Bの看護計画を立案する。 2.患者Bの看護実践に必要な看護技術の内容について学習し、技術練習する。 | | | |
| 7 | 6. 複数の看護技術を要する1名の患者(患者B)の看護の実践 -1) 看護実践 -2) リフレクション | シミュレーション演習 | |
| 8 | 7.2名の患者に対する実践 (1)ケアの優先順位の考え方 (2)タイムマネジメントと行動画立案の視点 (3)予期せぬ事象が発生した場合の対応 (4)タイムプレッシャーが生じた時の対応 【事前課題】患者A・Bの行動マネジメント計画を立案する。 | 講義 | |
| 9 | 7.2名の患者(患者A、患者B)の看護実践における行動マネジメント立案① | グループワーク | |
| 10 | 8. 2名の患者に対する看護実践のための技術演習① I-SBARCを活用した報告 | 演習 | |
| 11 | 【事前課題】患者A・Bの看護に必要な技術の事前学習を行い演習に臨む 9.2名の患者に対する看護実践のための技術演習② | 演習 | |
| 12 | 10.2名の患者の看護実践における行動マネジメント立案② | グループワーク | |
| 13.14 | 11.2名の患者に対する看護実践 -1) 看護実践 -2) リフレクション | シミュレーション演習 | |

| | | |
|---|--|----|
| 15 | <p>－3) 2名の患者へのケアマネジメントまとめ</p> <p>【事後課題】 2名の患者への看護実践をふまえて、統合実習での自己の課題についてレポートする。</p> | 講義 |
| <p>授業の進め方</p> <p>本科目では内容を2部構成とし、第一部では、複数の看護技術を要する1名の事例患者に対し、一つ一つのケアの根拠と起こりうるリスクをふまえ、一連のケアの中での優先度を判断し安全・安楽に実践する方法を学ぶ。</p> <p>第2部では、1部での学習内容をふまえて、2名の事例患者を受け持ち、状況に応じてそれぞれの看護の優先度を判断し、他の患者への配慮や調整をしながら安全・安楽な看護を実践する方法を学ぶ。</p> <p>実践（シミュレーション）で必要となる看護技術は各自で時間を確保し練習すること。</p> | | |
| <p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理（医学書院）</p> <p>他、演習内容に応じてこれまでのテキストすべて</p> | | |
| <p>評価方法</p> <p>演習の参加状況、レポート、筆記試験、出席状況等総合的に評価する。</p> | | |

| 領 域 | 統合分野(看護の統合と実践) | 開講時期 | 3年前期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|----------------|-----------------|---|------|------|---|--|----|---|---|----|---|---|----------|---|---|----|---|---|----|---|---|----|---|-------------------------|----|
| 科 目 名 (単元名) | 看護実践演習 (看護倫理) | 単 位 数 (時間数) | 2単位(45時間)うち15時間 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 講 師 (所属・職位等・実務経験) | 山田 祐子 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師27年) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p><科目目標> 科学的根拠に基づいた看護実践のプロセスを通じて、看護技術の意義や看護実践における知識・技術・態度のあり方について自己の課題を明確にする。また、倫理的意思決定のプロセスを支える理論とその方法を理解する。</p> <p><内容></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護専門職としての倫理の必要性 3) 看護倫理の歴史的推移 4) 看護師の価値観 2. 看護倫理のアプローチ 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>3. 看護倫理に関係する重要な概念 1) ケアリング 2) アドボカシー 3) パターナリズム 4. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5) 看護専門職組織の役割と倫理綱領 5. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」</td> <td>講義 演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-1</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-2</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-3</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>6. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table> | | | | 回 | 授業内容 | 授業方法 | 1 | 1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護専門職としての倫理の必要性 3) 看護倫理の歴史的推移 4) 看護師の価値観 2. 看護倫理のアプローチ 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理 | 講義 | 2 | 3. 看護倫理に関係する重要な概念 1) ケアリング 2) アドボカシー 3) パターナリズム 4. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務 | 講義 | 3 | 5) 看護専門職組織の役割と倫理綱領 5. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」 | 講義 演習 | 4 | 5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-1 | 演習 | 5 | 5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-2 | 演習 | 6 | 5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-3 | 演習 | 7 | 6. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 | 講義 |
| 回 | 授業内容 | 授業方法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 1. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは 2) 看護専門職としての倫理の必要性 3) 看護倫理の歴史的推移 4) 看護師の価値観 2. 看護倫理のアプローチ 1) 徳の倫理 2) 原則の倫理 | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 3. 看護倫理に関係する重要な概念 1) ケアリング 2) アドボカシー 3) パターナリズム 4. 看護職の倫理的責任と法的責任 1) 看護職の倫理的責任 2) 看護職の法的責任 3) インフォームドコンセント 4) 看護情報と守秘義務 | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 5) 看護専門職組織の役割と倫理綱領 5. 倫理的意思決定のステップ 1) 倫理的ジレンマとは 2) 倫理的意思決定を導くモデル「4ステップモデル」 | 講義 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-1 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-2 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 5. 倫理的意思決定のステップ 3) 4ステップモデルによる事例検討-3 | 演習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 6. 倫理的意思決定における看護職の役割と課題 | 講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>授業の進め方 看護倫理を考える上で基礎となる倫理原則について、歴史的経緯や具体的な看護場面をもとに学習する。また、倫理的ジレンマを抱いた実習での場面を想起し、その場面について4ステップモデルを用いたグループ演習とクラス全体での発表会をとおして倫理的意思決定の方法を理解する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>テキスト 1. 看護倫理 改訂第3版 (南江堂)</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>評価方法 筆記試験、課題レポート、授業への参加状況により総合的に評価する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |